

事業実施報告書

団体名：特定非営利活動法人のらんど

事業名：障害児生活サポート事業所や放課後等デイサービスと協同して開催する農体験イベント

1 事業の目的

- ①障害児がもっと農業に関われる機会をつくる
- ②農と障害児の事業所、協働のしくみをつくる
- ③農福連携を支える人材の育成へ向けて取り組む

2 事業内容

(1) 事業の概要

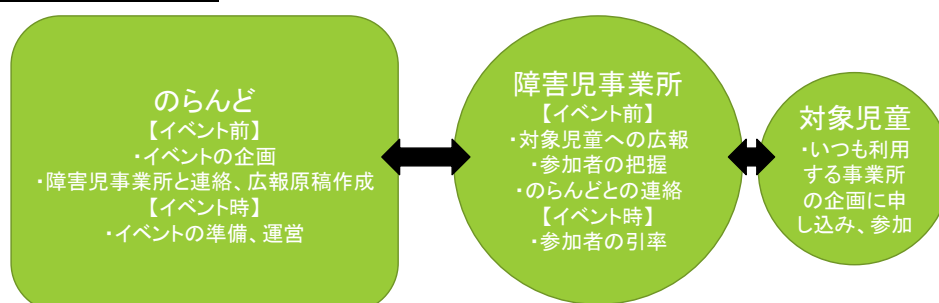
「農」をテーマに活動し農体験のイベントを企画開催するNPO法人のらんどと、「障害児」がテーマの障害児生活サポートや放課後等デイサービス事業所が協働して、より多くの障害児が安心して農体験できるイベントを開催する。

① 障害児がもっと農業に関われる機会を

農福連携が推奨されている中、障害のある児童が早い段階から農に触れ、興味の対象や進路先としてもっと身近に感じられるよう、農体験のイベントを開催する。

② 農と障害児の事業所、協働の仕組み

農業を行う団体がイベントを企画運営、それを障害児のための活動を行う団体に利用してもらうことで、情報を対象者に効率的に届け、安心して参加できるようにする。昨年度のアンケートの結果、より関心の高かった放課後等デイサービスに向けた企画、広報に力を入れていく。



昨年年度のアンケートの結果、より関心の高かった放課後等デイサービスに向けた企画、広報に力を入れていく。

③ 農福連携を支える人材の育成に向けて

福祉や農を学ぶ大学生にボランティアとして参加してもらい、人材育成につなげる。3年目となった今年は、何度もボランティアとして参加している学生に、ボランティアリーダーの役割をアルバイトとして担ってもらおう。

(2) 事業の流れ



2019年6月：協働団体、大学との打ち合わせ。広報。

6月29日：農園でやってみよう①「ハーブを使ったソーセージ作り」

□参加団体 3 □参加者 23名 □ボラ 7名

9月8日：農園でやってみよう②「夏野菜と流しそうめん」

□参加団体 1 □参加者 11名 □ボラ 8名

11月17日：農園でやってみよう③「里芋掘り」

□参加団体 2（うち1は午前のみ） □参加者 17名 □ボラ 10名

1月11日：大根収穫体験

□参加団体 1 □参加者 7名

2月2日：農園でやってみよう④「見沼の小麦を使ったパン作り」

□参加団体 2 □参加者 18名 □ボラ 4名

2月：反省会、来年度に向けた打ち合わせ

(3) 連携・協力機関

NPO法人ビーポップ、児童デイサービスくろわーる、明治学院大学、東京農業大学、埼玉大学、パルシステム埼玉

3 成果及び今後の展開

(1) 成果

① 広報

開催地の近隣地区であるさいたま市緑区、浦和区、南区、岩槻区に加え、川口市、越谷市の生活サポート事業所、放課後等デイサービス192事業所に対し、毎回のイベント開催1か月前までに、広報物を郵送。初回は開催地の説明と事業のパンフレット、初回イベントについての詳細を送付。2回目以降は次に開催するイベントについての説明と、イベントについて掲載するFacebookや法人WEBサイトのQRコードを掲載したハガキを送付。

② イベント全4回実施、3事業所の参加

2事業所の参加。第2回は、午後から台風の予報があり、1事業所のキャンセル有り、終了時間を早めて開催。

昨年度のアンケートを踏まえ、改善して開催。

- ・土曜開催日を増やした。ただし共催団体との日程調整により、全4回のうち1回のみにとどまった。
- ・トイレ等設備について事前説明と整備の不足について、事前の広報資料で見沼田んぼ福祉農園の説明を付けるとともに、事前の掃除や点検を行った。見沼田んぼ福祉農園全体に関わることは、今後、協議会との連携を行っていく。
- ・10時から14時半のイベントだが、午前のみ参加ができるようプログラムを作成。

③ 対象児童の参加

放課後等デイサービス向けの広報を強化したが、ほぼ横ばい。日曜の開所をやめた事業所も多く、土曜日の開催が求められている。一方、日曜日長時間のイベントは、一般市民の参加希望があった。

④ 参加した個人とその保護者、事業所に対するアンケート実施

参加者、保護者の満足度が高かった。

⑤ 人材育成について

明治学院大学、東京農業大学、埼玉大学のほか、学生同士のつながりやWEBサイトの広告により、その他大学に所属する学生も参加。昨年複数回参加した学生のうち1名をボランティアリーダーの役割でアルバイトとして参加してもらった。うまく機能し、ボランティア同士で協力しあってイベントの補助をしてもらうことができた。

⑥ 放課後等デイサービス向け、土曜日短時間イベントの実験的開催

実験的に、放課後等デイサービス向けに大根収穫体験を開催。1時間で見沼代用水の散策と大根収穫、収穫後の処理を体験。放課後等デイサービスから、短時間で簡単な内容で、参加できる児童を選ばず、事前の計画があまり必要ないため、行きやすいとの感想を得た。長時間イベントの半分参加よりも、個別の短時間イベントの企画のほうが参加しやすいということがわかった。

(2) 今後の展開

① 協働とイベント内容について

放課後等デイサービス向けの土曜日短時間のイベント企画でこれまでの広報で興味を持った事業所に直接働きかける。長時間のイベントは、一般参加希望者も入れての開催。

② 運営、人材育成について

スタッフの動きをさらに改善。ボランティアリーダーの育成にも力を入れる。

③ 周辺NPOなどとの協力について

今年度から周辺のNPOと協働を開始。障害のある児童向けの催しを協力して開催できないか、模索。障害のある児童向けのイベントノウハウを蓄積、整理し、周辺NPOや農家への理解を進める。

④ 運営費について

- ・ イベントの種類を豊富に、回数を増やして収入アップ。短時間で参加しやすい価格のイベントも開催することで、大人数にも対応。収穫だけ、全3回の継続企画、農を通じた交流など、さまざまな企画を用意することで、選択肢を増やし、多様なニーズに対応。
- ・ イベントの趣旨に賛同してくれている協働団体のうち、運営にも協力してくれるというところに、イベント中のサポートをお願いすることでスタッフの人数を増やさず対応する。
- ・ 法人のまちづくり事業全体で収入を上げる。